

2. 貴重な森林生態系の価値を損なわない適正な利用の推進

1 適正利用の推進について

< 検討課題 >

○ 観光客の適正利用の推進および一極集中への対応について

(対象となる団地: 全て(特に金作原))

< 主な意見 >

- 伝統的な自然資源の利用が失われてはいけない。どのような利用があるのか調べ、それを管理計画に盛り込むべき
- 金作原での環境負荷が大きな問題になるのではと危惧している
- 利用者の数のコントロールや利用の分散化について、今後検討していく必要がある
- 観光客がアマミノクロウサギを見れる場所に集中することも想定される。飼育施設等を作ることを検討すべき
- パンフレット等で紹介されている代表的な場所に人が集中する傾向がある。先手を打って、他の地域の情報も出すべき
- 用がない人には道路を通れなくすること、核心地域に行くような道は管理することが重要

< 現状 >

○ 金作原

- ・ 奄美群島森林生態系保護地域では最も利用が多い場所。ヒカゲヘゴ群落、オキナワウラジロガシの巨木等の観察ツアーとしての観光利用がある。
- ・ 観光バスの入り込みがあり、車両同士のすれ違いにリスクあり。
- ・ 金作原林道は一般車両通行規制となっているが、通行規制の看板は現地にのみ設置されている状況

○ 神屋

- ・ 奄美大島の中でも最も希少動物の生息密度が高いエリア。
- ・ アマミノクロウサギ観察のナイトツアーが実施されている。
- ・ 希少植物の盗掘等が生じている

○ 八津野

- ・ 八津野ナン川林道と八津野林道はゲートで制限されているため、ほとんど利用はない。
- ・ 瀬戸内中央林道は、アマミノクロウサギ観察のナイトツアーのルートとなっているが、市街地からの距離が離れているため利用頻度は少ない。
- ・ アクセスが良く、ゲートがあり監視されにくいことから、希少植物の盗掘情報が多い

○湯湾岳(特定動物生息地保護林)

- ・湯湾岳登山道があり、宇検村側と山都村側から登山口がある。
- ・登山口付近に設置された展望台の利用が多い。
- ・サンダルでの登山者も見受けられる。

○徳之島北部

- ・県道から近くアクセスは良い。
- ・天城岳登山道は入口が分かりにくく一般の利用はほとんどないが、地元の中学校の登山利用がある。
- ・天城岳では希少植物の盗掘の情報がある。

○徳之島中部(井之川岳、三京、剥岳)

- ・井之川岳:ハブが生息することもあり、一般利用は多くはないが、地元中学校の登山利用、地元集落の正月登山の慣習がある。
盗掘情報が多い。また、山頂のごみの放置がかつて多かったが、地元・NPO等の活動で現在はきれいにされている。
- ・三京林道:環境教育等による利用はあるが、一般利用はほとんどない。

○徳之島北部(犬田布岳)

- ・犬田布岳登山道があるが、山頂までの一般利用はほとんどない。
- ・登山道の前半の平地ではキノコなどの山菜採取がされていることもある。
- ・県道から直接アクセスでき、登山口は目立たない場所にあるため、登山口付近では不法投棄が多い。

<これまでの主な取組(検討中も含む)>

- ・展望台等の観光施設の整備【県、市町村】

<対応方向>

○車両通行規制箇所については、ガイドマップや看板等により、現地に入る前の段階で利用者が情報を把握できるよう周知を行う。

○将来的にオーバーユースが懸念される場所を中心に、森林生態系の状況や利用に関するモニタリング調査を実施し現状把握につとめ、必要に応じ対策を検討

○利用の規制・分散化、一般の観光客が利用できるルート・エリアの明確化等については、世界遺産全体の保全管理の観点から、関係機関と連携して検討を行う。

2. 貴重な森林生態系の価値を損なわない適正な利用の推進

2 ガイドによる利用について

<検討課題>

○ 実効性のあるガイドの養成・認定制度の検討について

(対象となる団地:特に金作原、神屋)

<主な意見>

○広域事務組合では、エコツアーガイドの認定に取り組んでいるが、研修プログラムに、森林生態系保護地域の利用研修のようなものを盛り込めればいい

○認定されたガイドしか入れない地域を作るなど、認定ガイドの優遇措置があるのが望ましい

<現状>

○金作原地区を中心に、観察ツアーが組まれている。

○アマミノクロウサギ観察のナイトツアーが実施されている。

○ツアー利用の自主ルールについて、エコツアーガイド連絡協議会等で作成が進んでいる。

<これまでの主な取組(検討中も含む)>

・エコツーリズム推進に関する取組み(ガイド登録、認証制度の構築等)【市町村、広域事務組合、ガイド連絡協議会】

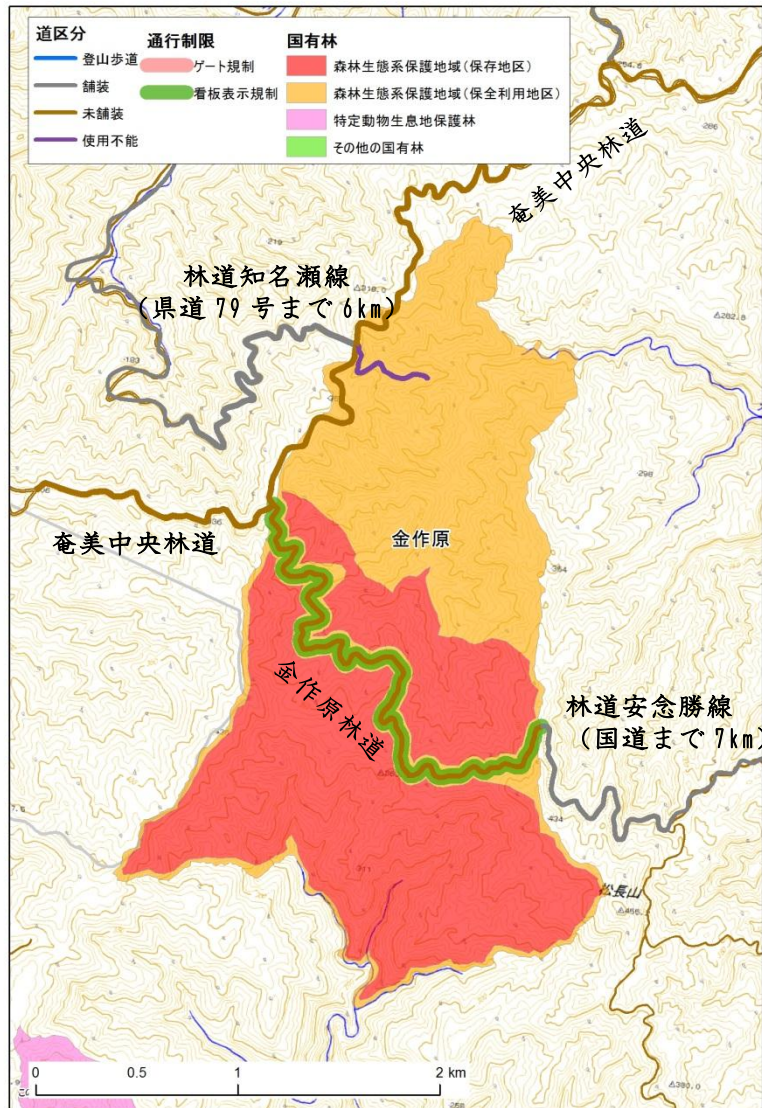
<対応方向>

○エコツアーガイド登録・認定制度構築について、協力し取り組む。(森林生態系保護地域の利用ルール等についての講習会の実施など)

各団地の林道・歩道の状況について

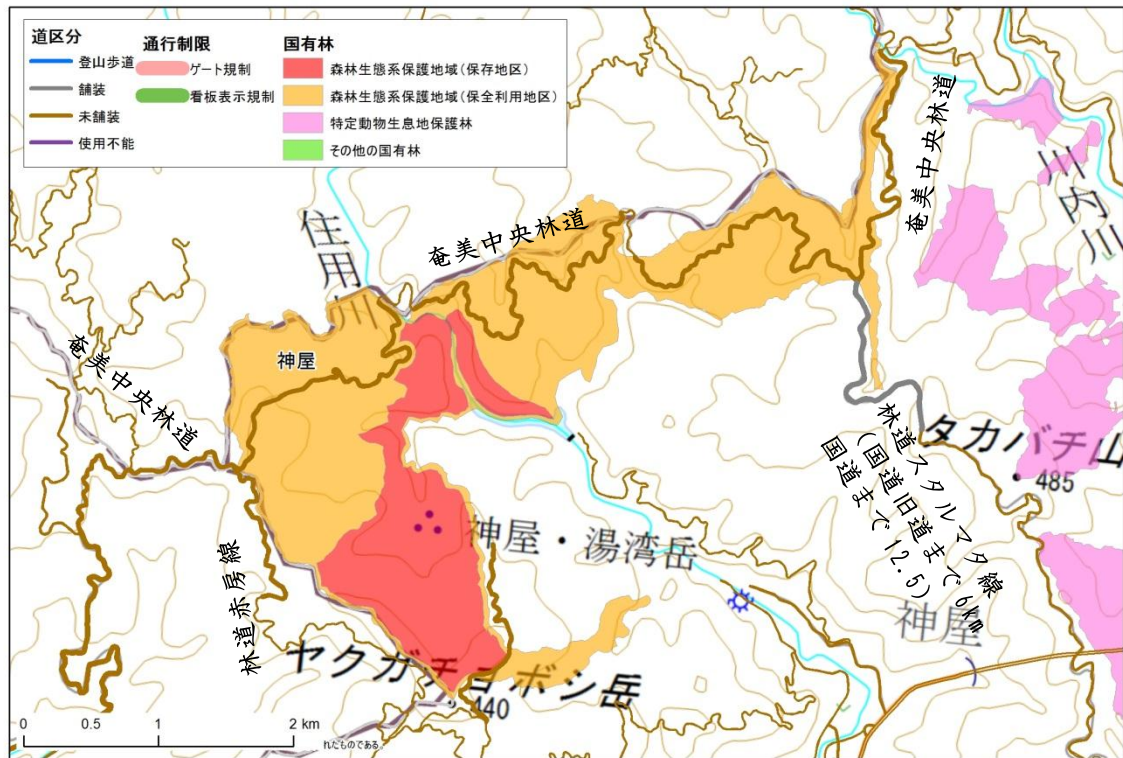
金作原

林道・歩道	中央部を東西に金作原林道が通っている。また、知名瀬線と奄美中央林道の分岐地点に保護林に伸びるかつての作業道があり、徒歩での利用がわずかながらある。
アクセス	知名瀬線からと安念勝線からの2つのルートがある
利用状況	奄美群島森林生態系保護地位金中では最も利用が多い箇所。ヒカゲヘゴ群落、オキナワウラジログシの巨木等の観察ツアーとしての観光利用がある。
管理状況	国有林が管理。金作原林道の両端に、一般車両通行規制の看板が設置され、車両の入り込みが規制されている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・知名瀬線からの観光バスの入り込みがあり、一般車両、レンタカーとのすれ違い時にリスクがある。 ・トイレ等の設置も検討されている。 ・オーバーユースは現時点ではそこまで問題化していないが、今後観光客が増加した場合に応じた対応が必要。 ・通行制限の看板が林道の両端にしかないため、観光客は金作原に到着して初めて制限を知る状況にある。県道からの登り口やガイドマップ等での周知が課題となっている。



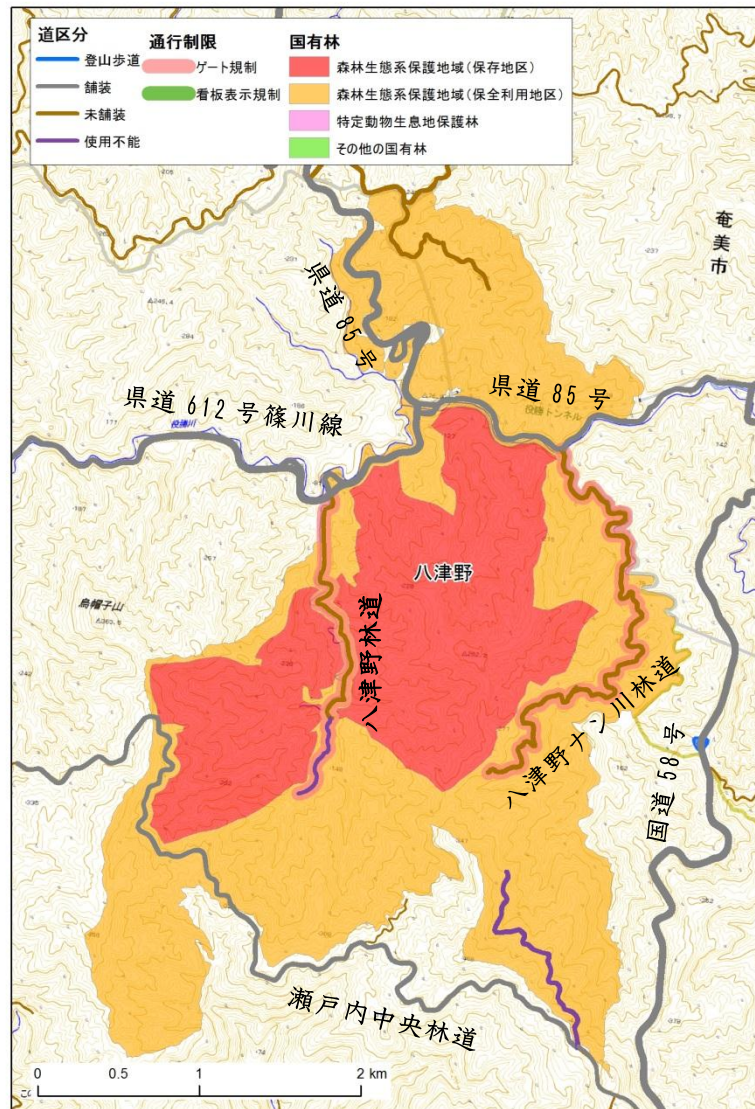
神屋

林道・歩道	保全利用地区内に奄美中央林道が東西に通る。奄美大島の中でも最も希少動物の生息密度が高いエリアを通る林道である。
アクセス	林道スタルマタ線からの利用がある。
利用状況	アマミノクロウサギ観察のナイトツアーのルートに組み込まれており、スタルマタ線から入り、奄美中央林道を利用し、クロウサギが十分観察できたら引き返すパターンが通常である。宇検村の県道まで抜けられるルートで、通り抜けでの利用も一部ある。
管理状況	市町村が管理。規制はない。大雨後には倒木や土砂崩れで頻りに通行不能になる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアー利用の自主ルールについてエコツアーガイド連絡協議会等で作成が進んでいる。 ・希少植物の盗掘等が生じている。 ・崖を削った部分が多く、樹冠のギャップが生じているエリアが多い。また、頻りにかけ崩れの工事が行われ、外部から土砂が持ち込まれている。そのため、ギャップの林道沿いには外来植物が多い。



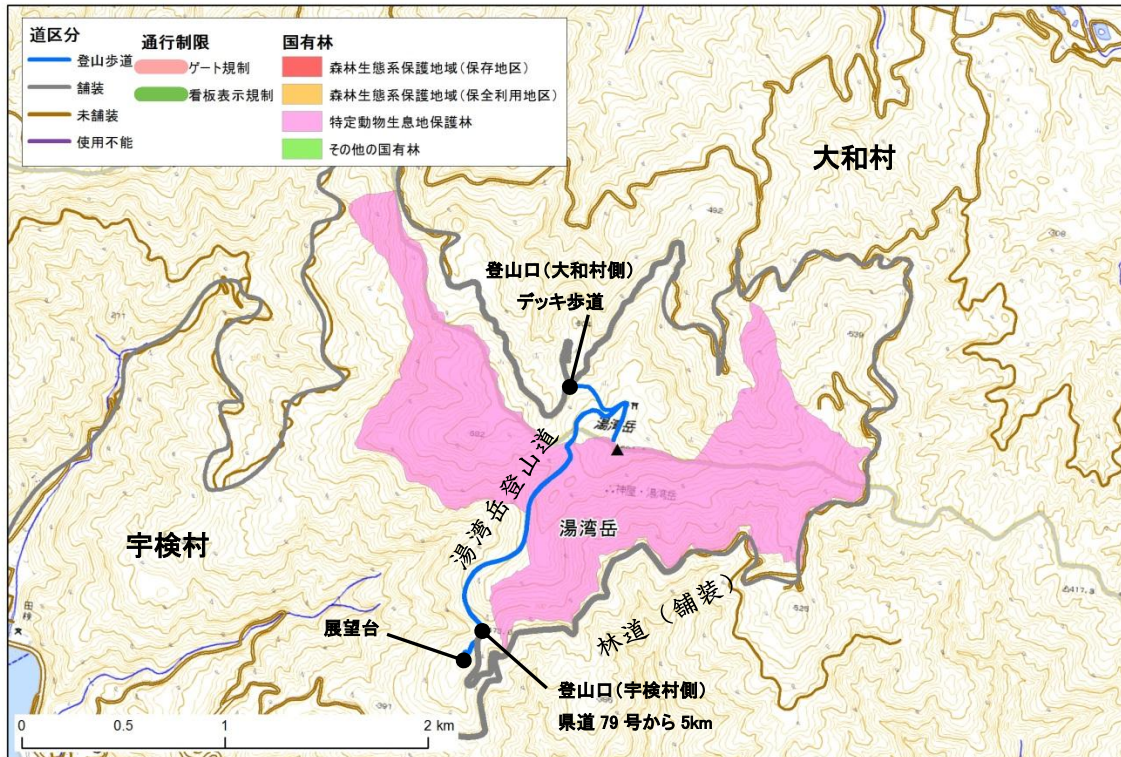
八津野

林道・歩道	八津野ナン川林道と八津野林道が保護林内にあり、両者とも入口にゲートが設けられている。また、南部には瀬戸内中央林道が通る。
アクセス	県道からすぐでアクセスはよい。
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・八津野ナン川林道と八津野林道はゲートで制限されているためほとんど利用はない。 ・瀬戸内中央林道は、アマミノクロウサギのナイトツアーのルートに組み込まれていることもあるが、市街地（奄美市名瀬）から距離があるため、そこまでの利用頻度はない。 ・県道沿いの役勝ち川および、県道の旧道では、生物観察会などの環境教育での利用がある。
管理状況	<p>八津野ナン川林道・八津野林道：国有林が管理。ゲートによる通行制限。</p> <p>瀬戸内中央林道：市町村が管理。規制はない。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセスが良いこと、ゲートがあり逆に保護林内は監視されにくいことなどから、希少植物の盗掘の情報が多い。 ・崖を削った部分が多く、樹冠のギャップが生じているエリアが多い。また、頻繁にがけ崩れの工事が行われ、外部から土砂が持ち込まれている。そのため、ギャップの林道沿いには外来植物が多い。



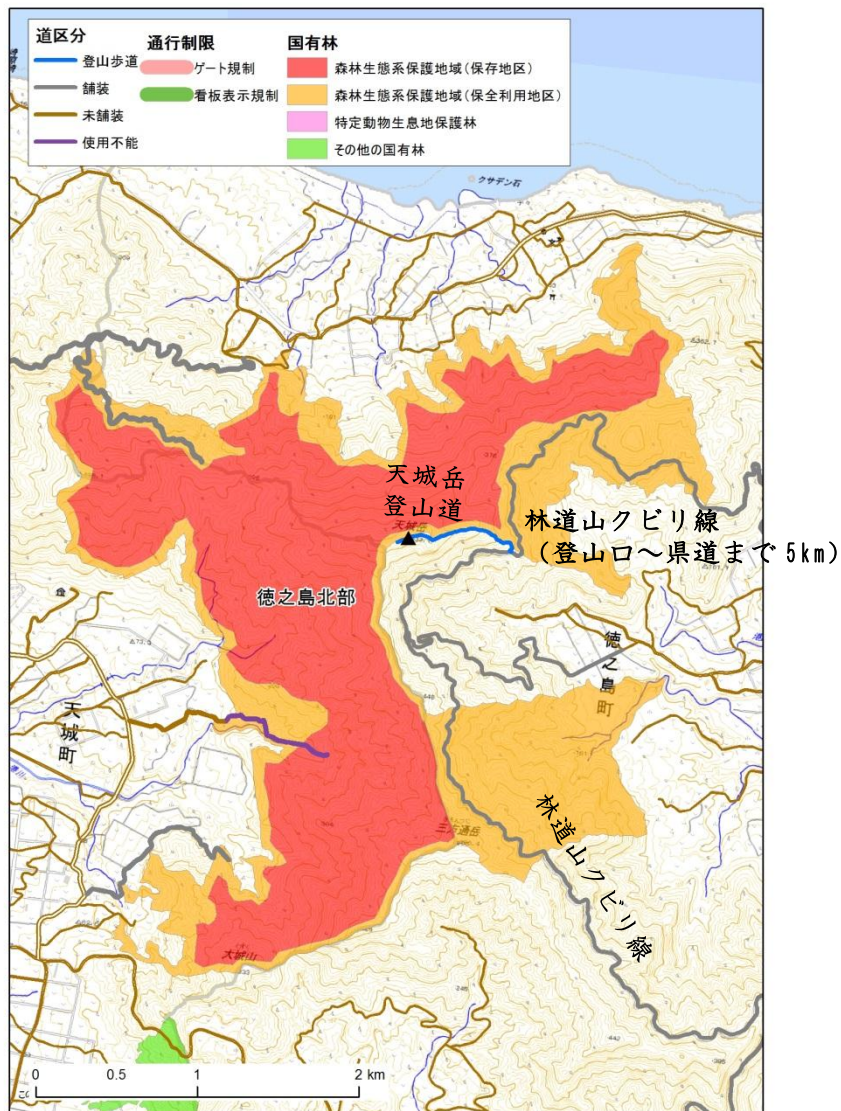
湯湾岳(特定動物生息地保護林)

林道・歩道	湯湾岳登山道があり、宇検村側と大和村側からの登山口がある。大和村側からは、登山口からデッキが設置されている。
アクセス	宇検村の県道からと、大和村のフォレストポリス方面からのアクセスがある。
利用状況	・登山利用はあるが、オーバーユースは特に問題化していない。多くは登山よりも、宇検村側の登山口付近に設置された展望台の利用が多い。頂上直下に神社等の広場があり、ここが頂上と勘違いされる場合も多い。
管理状況	管理主体：大和村。入山規制はない。
課題	・将来的に観光利用が増加した時にオーバーユース対策が必要 ・サンダルでの登山者も見受けられ、ハブの危険に対する周知が必要 ・保護林の境界が登山道上で分からない



徳之島北部

林道・歩道	山(さん)集落から入って、南部に抜ける山クビリ線、山クビリ線からアクセスできる天城岳登山道、および北西部の NTT の電波塔に続く林道がある。
アクセス	県道からすぐでアクセスはよい。
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・天城岳登山道は入口もわかりづらく一般の利用はほとんどない ・地元の中学校の登山利用がある。 ・山クビリ線も地図によっては標記していないことも多く利用はそれほどない。
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・天城岳登山道：管理者は特になし ・その他林道：市町村
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・天城岳では盗掘の情報もある ・山クビリ線では、アマミノクロウサギの轢死やノネコによる捕食被害が生じている。



徳之島中央部(井之川岳、三京、剥岳)

林道・歩道	井之川岳の登山道と、三京林道、剥岳林道、および剥岳林道から北の丹発山に伸びる作業道（現在通行不能）がある。
アクセス	徳之島町、天城町両方面から 30 分程度でアクセス可能
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> 井之川岳：ハブが生息することもあり、一般利用は多くはない。地元中学校の登山利用がある。また、地元集落の正月登山の風習がある。 三京林道：環境教育等での利用はあるが、一般利用はほとんどない
管理状況	<ul style="list-style-type: none"> 井之川岳登山道：管理者は特になし 剥岳林道・三京林道：国有林。ゲート等による制限はなし。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 井之川岳は盗掘情報が多い。山頂のごみの放置がかつては多かったが、地元 NPO などの活動で現在ではきれいにされている。 三京林道：頻繁にがけ崩れの工事が行われ、外部から土砂が持ち込まれている。そのため、ギャップの林道沿いには外来植物が多い。



徳之島中央部(犬田布岳)

林道・歩道	犬田布岳登山道がある
アクセス	県道から登山道入り口にアクセスできる。
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・登山道の前半の平地では、キノコなどの山菜採集がされていることもある。 ・山頂までの一般の利用はほとんどない。
管理状況	管理者は特になし。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県道から直接アクセスでき、登山口は外から見えにくい場所にあるため、登山道入り口付近は不法投棄が多い。

